市町村議会で議決した意見書等（令和３年３月）

令和3年3月22日現在

№.	市 町 村 名	件名	議決年月日	頁
1	二　戸　市	岩手県立福岡工業高等学校の単独校での存続を求める意見書	R3.3.12	1

市町村議会名	意見書の内容
二　戸　市	【議決年月日】令和３年３月 12 日 【提　出　先】岩手県知事　岩手県教育長 【件　　　名】岩手県立福岡工業高等学校の単独校での存続を求める意見書 岩手県立福岡工業高等学校は昭和 39（1964）年に開校され、今日まで 57 年間に亘り、地域の産業技術の担い手となる人材を輩出してきたところであります。又、福岡工業高校は通学・通勤の利便性もよく、二戸管内だけでなく他県からも、ものづくりを目指す若者が集い、それを支え指導する教職員が教職に頑張っております。又、福岡工業高校は、各種資格取得の優れた実績を誇り、広く関連産業を支える有為な人材を育成する二戸地域唯一の工業高校として、重要な役割を果たしてまいりました。 そして現在、県の大規模施設整備事業として総事業費 26 億５千９百万円を投じ、福岡工業高校改築事業が、令和２年度の完成をめざして進められており、保護者をはじめ地域住民は喜びとともに、教育現場が整備されることに大きな期待をよせております。県教委は総合計画書案が公表された日から、僅か２年５カ月前の平成 29 年９月 22 日作成の大規模施設整備事業事前評価調書で、「福岡工業高校は昭和 39 年以来地域の産業技術の担い手となる人材を輩出してきたところであり、引き続き二戸地域唯一の実業高校としてニーズが見込まれる」と高く評価をし、「教育環境の向上等により当該校の強みがさらに発揮され、工業専門校としての魅力や位置づけがこれまで以上に向上することが期待される」と結ばれております。そして計画の妥当性において「当該校は統廃合の対象となっていない」と断じております。 これら一連の経緯をみる時、福岡工業高校と一戸高校の統合は合理性に欠け、整合性がとれないものと思慮されます。 心配される入試状況においては、福岡工業高校機械システム科・電気情報システム科ともに定員には届かないまでも、近年では見られない大幅増となっております。コロナ後の社会構造・産業構造の変化などから、工業高校は今後さらに増員になる可能性が大きいと思われます。又、県では今年度から新たに県北・沿岸振興室を設け、県北・沿岸振興の推進を図る方針のようですが、地域の振興にはその担い手が必要であります。今その担い手を育成するために教育の充実をはかる時ではないでしょうか。 よって、岩手県においては、このような状況下において二戸地域における産業技術の担い手を育成する唯一の工業専門校である県立福岡工業高校を単独校で存続されるよう求めます。 以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出します。